

No.	まちづくりの方向性	施策の柱	意見	関係する意見
1			評価の透明性を確保し、市民アンケートの結果等をもとに課題を明示すること。	評価の透明性が大切。評価する側の都合によって評価を変えることは避けるべき。(林委員)
2			市民アンケート結果の評価について、評価基準の定義を整理し適正に評価すること。	評価の区分方法を相対評価で統一すべき。(松永副部長) 「評価が分かれた」、「評価が得られなかった」の評価について区分を整理すべき。(石丸委員)
3			政策の評価にあたっては、事業の提供主体である担い手による評価も踏まえること。	評価について担い手のヒアリングも行うべき。(鈴木委員)
4			市民アンケートにおける質問項目について、市民にとって分かりやすく、正しく回答できるような内容を検討すること。	市民アンケートにおいて「交通ルールが守られていない」という回答が多かったが、市民がルールを知っている前提か。(鈴木委員) 市民アンケートにおけるいずみグリーンビレッジの3施設について、各施設が有する機能等も考慮し、質問項目の整理を行うこと。(鈴木委員)
5			市民アンケート結果における生活実感指標に対し肯定・否定と感じた理由について、回答者数及び回答割合をわかりやすく表示すること。	肯定/否定の選択した割合(%)は母数が異なるにもかかわらず、肯定/否定をそれぞれ隣合わせとしたグラフであるため、誤解を招きやすい。(岩崎委員) 図表においてn数がなく正確に読み取れない箇所を修正。(岩崎委員)
6	全体	全体	市民アンケート結果について、調査時における社会・経済情勢の影響や当事者の回答傾向、地域特性などを十分に踏まえ、丁寧に分析・考察を行うこと。	市民アンケートは令和3年の12月頃に実施されたものであり、当時は感染症対策のため色々と制限があったことから、当時の社会状況を踏まえ分析を行うべき。(菊地部長) 当事者がマイナス評価となっているのは大事なデータなので要因を丁寧に分析し今後の事業に活用すること。(貞広委員) シート2-4の高齢者の暮らしについて、肯定・否定ともに全体より高い当事者の項目があり丁寧な分析が必要。(菊地部長) 散策できる川辺について居住区別で花見川区で評価されていることから「理由は明らかではないもの」という表現の見直し。(岩崎委員) 市民アンケートにおいて区ごとにクロス分析を行い、違いが顕著なところに着目し考察を行うべき。(岩崎委員) 都市公園の1人当たり面積は区ごとに異なることを考慮すべき。(松永副部長) 区ごとの特色や方向性に沿っているのかという観点での評価を検討すべき。(菊地部長) 地域別の評価を行うことについて、評価の基本姿勢を確認。(石丸委員)
7			目標の達成・未達成についてはコロナ禍の影響などが要因となっているものもあることから、未達成となった要因や理由について丁寧に分析すること。	同じ「未達成」であっても制約があつてできなかったなど、どういった状況で未達成という結果となったのか考察すべき。(石丸委員) 目標未達成であってもグラフを丁寧に読み取り考察すべき。(鈴木委員) 未達成の理由をコロナとすることについて丁寧な分析が必要。(貞広委員)
8			客観指標については、市民に伝わりやすい指標名称となるよう検討するとともに、目標値の考え方や評価を明示すること。	客観指標「No.8 老化化した遊具の更新数」について、市民にとって目的が分かりやすい名称を検討すべき。(石丸委員) 客観指標「No.88 建物の延焼率」について、目標値設定の考え方や評価を追記すること。(菊地部長)
9	1	1-1	コロナ禍の影響を受け利用者が減少した施設等について、今後の感染症にかかる動向に関する記述を見直すこと。	「今後感染症が収束することを見据え～」という表現の見直し。(松永副部長)
10		1-3	再生可能エネルギーの導入について、具体的な手法を記述すること。	再生可能エネルギーの導入について具体的に記述すること。(松永副部長)
11			脱炭素社会の実現に向けた取組みについて、市民に求められる取組みを具体的に記述すること。	脱炭素社会の実現に向けた取組みについて具体的に記述すること。(石丸委員)
12		市民一人あたりごみ排出量が他都市と比較して多い要因について分析し、具体的な取組みを記述すること。	市民一人あたりごみ排出量が他都市と比較して多い要因について分析し、具体的な取組みを記述すること。(鈴木委員)	
13	2	2-1	がん検診受診率について、全国的に低下傾向にあるなか千葉市で上昇している要因について分析すること。	がん検診受診率について、全国的に低下傾向にあるなか千葉市で上昇している要因について分析すること。(石丸委員)
14			ウォーキングポイントにおける参加者が継続的に健康づくりに取り組むことができる仕組みについて、現在の具体的な取組や成果を踏まえ、今後の方針を記述すること。	ウォーキングポイントにおける参加者が継続的に健康づくりに取り組むことができる仕組みについて、現在の具体的な取組や成果を踏まえ、今後の方針を記述すること。(石丸委員)
15		2-3	生活自立・仕事相談センターにおける相談について、庁内の関連部署はもとより他の関係機関との一層の連携強化の重要性について記述すること。	生活自立・仕事相談センターにおける相談について、庁内の関連部署はもとより他の関係機関との一層の連携強化の重要性について記述すること。(石丸委員)
16	3	3-1	文化芸術の評価にあたっては、様々な年代への鑑賞等の機会の提供についても記述すること。	文化芸術の評価にあたっては、様々な年代への鑑賞等の機会の提供についても記述すること。(林委員)
17	4		消防団活動について、市が消防団に求めることや消防団機能を整理する必要性についても記述すること。	市として消防団に何を求めるか、消防団員の役割など機能の整理をすることが必要。(松永副部長) 多様な学びの機会のバックアップとともに消防団がどこまでできるのか、議論が必要。(浅野委員)
18			地域防災活動の質的な評価にあたり、避難所運営委員会の女性委員率、防災ライセンス講座の受講者数などの指標の導入について検討すること。	地域防災活動の質的な評価にあたり、避難所運営委員会の女性委員率、防災ライセンス講座の受講者数などの指標の導入について検討すること。(浅野委員)
19		4-2	高齢者の外出支援の観点からも市営住宅のバリアフリー化の重要性について記述すること。	市営住宅のバリアフリー化は高齢者の外出支援の観点からも重要。(石丸委員)
20	5	5-1	都市の魅力を高めるため、まちにおける市民等の過ごし方にかかる分析・評価の手法について検討すること。	都市の魅力について、まちにおける市民の過ごし方やまちの使い方が重要視されており、評価方法を検討すべき。(林委員)
21			千の葉の芸術祭について、市民アンケートの結果だけでなく多面的な視点から評価を行うこと。	千の葉の芸術祭について、市民アンケートの結果だけでなく多面的な視点から評価を行うこと。(岩崎委員)

答申(案)に関連する意見(行政活動の改善に関する意見)

No.	まちづくりの方向性	施策の柱	意見	関係する意見
1	全体	全体	庁内の連携強化を図り、課題解決に向けた取組みを推進すること。	複合的な課題について、庁内で課をまたいで課題を考えた方がよい。(石丸委員)
			異なる分野の課題を掛け合わせ、分野横断的に課題の解決方法を検討すること。	課題と課題を掛け合わせ、分野横断的に課題解決を模索する必要がある。(林委員)
2	1	1-2	身近な公園について、利用の実態及び市民のニーズに対応した公園づくりを行うこと。	コロナ禍を経て身近な公園での過ごし方が見直されたことについて、今後の政策の参考にすべき。(菊地部会長)
3		公共施設等における植樹について、行政とコミュニティとの役割分担という視点も踏まえ、地域の方々と内容や管理のあり方等について検討すること。	植樹を行ううえでは、何を植えるか、コミュニティにどういった役割を持たせることができるかという視点も大事。(林委員)	
4		1-3	電気自動車の一層の普及に向けた取組みについて、市民への普及啓発及び充電設備に関する支援を強化すること。	市内に水素自動車・電気自動車の給電所を増やす取組みを進めるべき。(松永副部会長)
5	2	2-2	出産子育て、仕事との両立にかかる企業の取組みについて、実態を十分に把握し課題を明らかにすること。	出産子育て、仕事との両立にかかる企業の取組みについて実態を十分に把握し課題を明らかにする必要がある。(浅野委員)
6	3	3-1	不登校に対する課題を解決するため、どうすれば学校を楽しい場所にできるかという視点も考慮し、対応策を検討すること。	学校が楽しくないことを理由に学校に行かないという意見もある。どうすれば学校を楽しい場所にできるかという視点も大事。(林委員)
7		3-5	分野横断的な市民参画の促進について、テーマや地域を越えて情報共有や交流を促進する仕組みづくりを検討すること。	市民の地域活動を促進するためには、縦割りでない情報の流通の仕組みを検討すべき。(浅野委員)
8	4	4-1	避難行動要支援者名簿において、活用途について他都市の事例を参考にするとともに、未提供の地域団体に対し、個人情報の取り扱いを丁寧に説明するなど、継続的に働きかけを行っていくこと。	避難行動要支援者名簿については、避難時だけではなく、避難生活期においても活用可能であることなど、別の活用方法を関係者に伝えることも重要であるため、活用途について他都市の事例を参考にすること。(浅野委員)
名簿の提供について、独自に名簿を作成している団体との連携ができればよいのでは。(岩崎委員)				
名簿の提供に至らない理由について丁寧に確認すべき。(石丸委員)				
9		4-1	避難所の運営などにおいて、若い世代の力を積極的に活用することについて検討すること。	子どもたちがESDについて学んでいる場合、避難所運営に子どもが積極的に参加したという例がある。若い世代の力を防災に活用できたらよい。(岩崎委員)
10		4-2	公共交通における移動ニーズへの対応について、公共交通へのアクセス性だけでなく、利用者の属性や利用実態も考慮し、検討を行うこと。	アクセス性だけでなく、どういう人が実際に公共交通のアクセシビリティが低下するかということも勘案しコミュニティバスの運行を含め検討すべき。(松永副部会長)
11	5	5-1	幕張新都心のまちの価値を維持・向上させるため、まちづくりを積極的に推進する組織を設立すること。	幕張のまちづくりについて危機感を持ち、市としてもまちづくり協議会を設立すべき。(松永副部会長)
幕張のまちづくりについて、考察を踏まえ、今後どうしていくか伺いたい。(石丸委員)				
12		5-2	中小企業等において、事業承継により経営を継続していくことも重要であるため、効果的な支援を検討すること。	廃業から事業承継というアプローチによって経済を継続していくことも重要。(鈴木委員)
13		5-2	起業の促進に当たっては、起業者の属性を丁寧に分析し、ニーズも踏まえながら事業展開を図ること。	起業の属性について十分に把握することでより実効性の高い事業につながる。(浅野委員)
14		5-2	スタートアップについて、県内自治体の事例等も参考にしながら、取組みを強化すること。	スタートアップについて、県内自治体の取組みを注視し、市としても取組みを強化していくべき。(松永副部会長)